

第 44 期総会・記念フォーラム開催

台風 12 号のため延期となっていた第 44 期総会と記念フォーラムを、9 月 19 日（水）に開催しました。13：30 から総会（2017 年度活動・会計報告、2018 年度活動・財政計画）と山崎記念農業賞授与式を行い、15：00 から記念フォーラムを行いました。

◆新人事

総会において、長らく所長を務めていただいた小泉浩郎先生の退任に伴い、山路永司先生（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）を新たに所長に選任し、また幹事も新たなメンバーを加えて新体制で出発することになりました。新体制は以下の通りです。なお、任期は 2018 年 7 月 1 日～1920 年 6 月 30 日の 2 年です。

所長・幹事	山路 永司
幹事	石川秀勇、佐々木哲美（新任）、塩谷 哲夫、高木茂（新任）、田口均、西山和宏、益永八尋、渡邊博
監事	松野肇
顧問	熊澤喜久雄、小泉浩郎（新任）、田渕俊雄、中川昭一郎、松坂正次郎、安富六郎
事務局	渡邊博（事務局長）、田口均、高木茂、益永八尋

◆第 42 回山崎記念農業賞

山崎記念農業賞は、神奈川県三浦市で農家直売をベースに野菜栽培を営んでいる高梨農場の高梨雅人さんに授与しました。

表彰状

高梨農場 高梨雅人 殿

高梨農場は、三浦半島の豊かな風土を活かし、旬のおいしさを演出するため家族経営と農家直売を選択しました。旬ごとの少量多品目栽培、環境にやさしい栽培技術の採用、趣味の写真を活かした情報発信や地域活動への積極的参加など、その行動力は農業に生き農業を楽しむモデル的存在です。

さらに、豊かな風土に生き暮らすことに価値を同じくする農家、漁家、料理人等の異業種間で「三浦半島食彩ネットワーク」を作り三浦ブランド形成の中心的役割も果たしています。

ここに、さらなる発展を祈念し第四二回山崎記念農業賞を贈ります。

2018 年 7 月 28 日 山崎農業研究所 所長 小泉 浩郎



記念フォーラム「農家直売とその仲間たち」—三浦半島の地産地消に学ぶ—

記念フォーラムは、山崎記念農業賞受賞者高梨雅人さん、高梨さん等が活動している「三浦半島食彩ネットワーク」の事務局 桑村治良さん、農産物直売などの研究やコーディネートを行っている千葉大学の櫻井清一先生にそれぞれご講演いただき、活発な討論を行いました。講演の詳しい内容については、機関紙「耕」145号（2018冬）に掲載する予定です。

*** 三浦の食に魅せられて ***

桑村治良氏（オン・ザ・ハンモック／三浦半島食彩ネットワーク事務局）

Webクリエイターの桑村治良氏は、東京で音楽雑誌の編集職に就いていましたが、仕事に忙殺される日々で心に余裕がなくなっていることに気づき、ゆとりのある暮らしを求めて三浦への転居を決めました。台頭し始めたスマートフォンの性能と可能性に着目し、デジタル媒体の分野へ飛び込みました。

ITを通じた地域活性化に取り組むきっかけになったのは、2013年に開発した横須賀・三浦の野菜直売所を紹介するアプリの開発だそうです。普段の生活で発見した地元野菜の美味しさや食材探しの面白さ、三浦ならではの魅力を多くの人に伝えたいと農家へ赴いては丹念に話を聞いて回り、三浦にはバラエティに富んだ野菜の直売所や朝市が多いことに気づかされたといいます。

三浦野菜の魅力を伝えようと直売所の案内をするアプリの制作を行うなかで高梨さんと出会い、その関係から2014年に立ち上げた「三浦半島食彩ネットワーク」の事務局を引き受けることになりました。

主な活動として、京浜急行横須賀中央駅のリドレ横須賀という商業施設で、毎週第3土曜日に行っているマルシェです。これは食彩マーケットが主催していて、『三浦半島 食彩マーケット』の名前で開催しています。

また、『観光』にも力を入れ、三浦で農業、漁業体験をしたいといった問い合わせの対応を行っているとのこと。『情報発信』の仕事も重要な柱で、メディア取材対応や、インターネット、アプリ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などの運営も含めた情報発信を行っています。最近では会員の方と一緒にアプリを開発したり、農産物加工品のパッケージデザインを請け負ったりする仕事も行っているそうです。著書には「世界一受けたいiPhoneアプリ開発の授業」などがあります。

*** 直売を柱とした生産と販売、地域の活動 ***

高梨農場 高梨雅人氏

神奈川県三浦半島は温暖な海洋性気候のため、冬でも露地栽培が可能な地域で、古くから首都圏の冬春大根の供給地として発展してきました。農地は起伏が激しく矮小ですが、年3作等栽培回転率をあげ



桑村さん



土曜マルシェ；横須賀中央駅近くのリドレ横須賀の歩行者天国にて

て収益をあげている農家も多いそうです。

三浦では農家の子弟は農業を継ぐのが当たり前という風土で、高梨さんも例にもれず 1985 年に就農しました。三浦の野菜といえば三浦大根が有名ですが、現在三浦大根を栽培、出荷しているのは大根農地に対して約 1%程度にすぎず、1979 年秋の台風による被害を契機に、コンパクトで扱いやすく収穫高も高い、青首大根が現在主流になっているそうです。

高梨さんは「料理に応じて食材の品種は使い分けるものだ」という信念から、多様な消費者のニーズに応え、かつ需要の動向を見ながら生産を微調整できる多品種少量生産と直売の道を選び、現在は約 150 品種目の野菜を栽培しています。それもあってか、お客さんには料理人や野菜料理好きな方が多いそうです。三浦の気候風土、地形は多品種少量生産に向いており、直売農家をはじめ、体験農園等、三浦半島農業の経営形態は多岐にわたるようになりました。グリーンツーリズムやブルーツーリズムなどの動きも出始めてきて、生産物を売るだけでなく、農林水産業の現場に消費者を呼び込もうという流れになっています。

三浦の農家では環境に配慮した栽培も関心が高く、高梨さんは科学的に根拠ある栽培管理を目指し、可能な限り農薬や化学肥料を減らしながら様々な栽培手法を定量的に比較検討し、環境にやさしい栽培技術の向上に努力しています。病虫害対策については、現在の標準的な管理法である IPM（総合的病虫害管理）に積極的に取り組み、厳密な意味での有機栽培は指向していませんが、環境保全型の農業を目指しています。

*** 日本型農産物直売所の 30 年 ***

櫻井清一氏（千葉大学園芸学部）

櫻井先生は、地域活性化、マーケティング、農産物直売などの研究やコーディネートを続けています。今回は「日本型農産物直売所の 30 年」と題して、現在一般化した日本流の共同直売所（比較的多くの出荷者を組織して常設店舗で連日営業する直売形態）がこの 30 年の間にどのようにして生まれてきたのか、そのプロセス・成果と問題点、とくに直売所に登録している個々の出荷者の行動などについて、海外の事例との比較を交えお話いただきました。

直売の歴史は古く、交通の要所、寺社前での伝統的な位置は直売の原型ともいえます。しかし、流通の近代化でこれらの伝統市は次第に姿を消し、卸売市場や量販店がそれに代わって大きく成長してきました。一方、農業、特に中山間地域の農業が生き残るためには地域資源を活かした商品の開発やマーケティングの開拓の必要性、消費者ニーズの多様化等を背景とした地域流通の比重の高まりから、農産物直売が見直されるようになってきました。

農産物直売といっても様々な形態があり、また農家の直売に対する思い入れも様々です。先生の調査による



高梨さん



櫻井先生

と、直売所に出荷する生産者の意識として、減農薬・減化学肥料、継続出荷、顧客のニーズ（意見）といったところへの関心が高いのが共通しています。また直売の魅力としては、自分の責任で価格を設定できる、数量に縛られることなく出荷できる、顧客と交流できる、農家同士の交流が深まる等が挙げられ、逆に課題として、価格の決め方が難しい、品ぞろえが不十分、袋詰めの手間が大変という点を挙げる農家が多いそうです。さらに、直売は品目が多くなりがちなので、品目によっては栽培・加工技術についてわからないことが多いという声も多いようです。直売は、魅力と課題が表裏一体の関係にあることがよくわかります。また、直売が見直されてきているなかで、直売所の大規模化、集荷圏の拡大が進み、出荷者獲得競争など、本来の直売の理想から離れていく傾向もみられると言います。

櫻井先生の主な著書

『直売型農業・農産物流通の国際比較』（農林統計出版、2011年）

『実践・農産物地域ブランド化戦略』（共著。筑波書房、2009年）

『青果物購買行動の特徴と店頭マーケティング』（共著。農林統計出版、2009年）

『農産物産地価をめぐる関係性マーケティング分析』（農林統計協会、2008年）

『Potential of Social Capital for Community Development』（共著。アジア生産性機構）

第160回定例研究会-現地研究会の開催について

開催日：2018年10月27日（土曜日） 13:00～16:00

場 所：埼玉福興（株）代表 新井利昌氏

埼玉県熊谷市弥藤吾 2397-8

テーマ：**** 農と福祉からオーガニックな社会へ ****

JR 熊谷駅 11:20 集合

熊谷駅 11:35→妻沼行政センター11:55（バス 430円）

※旭自動車・熊谷駅-妻沼（バイパス経由）・妻沼行

※一緒に昼食を取られない方は12:15→12:35のバスで現地に直接来てください。バス停から徒歩10分程度です。

現地で昼食 12:10～12:50

研究会 13:00～16:00

① 圃場見学

② 講演（話題提供）

(1) 新井利昌さん「オーガニックな社会をめざして」

(2) 林よしえさん or 奥村奈央子さん「デザインがつなぐ農福社会

お二方については依頼中です

③ 意見交換

帰りのバス時間

妻沼行政センター → 熊谷駅 16:09、16:44、17:23があります。

事務局連絡先 益永八尋 E-mail yahiro_mas@docomonet.jp（自宅）

携帯 080-2061-4227

渡邊 博 E-mail hi.watanabe@ntc-c.co.jp（NTC コンサルタンツ株）

携帯 080-6965-9845

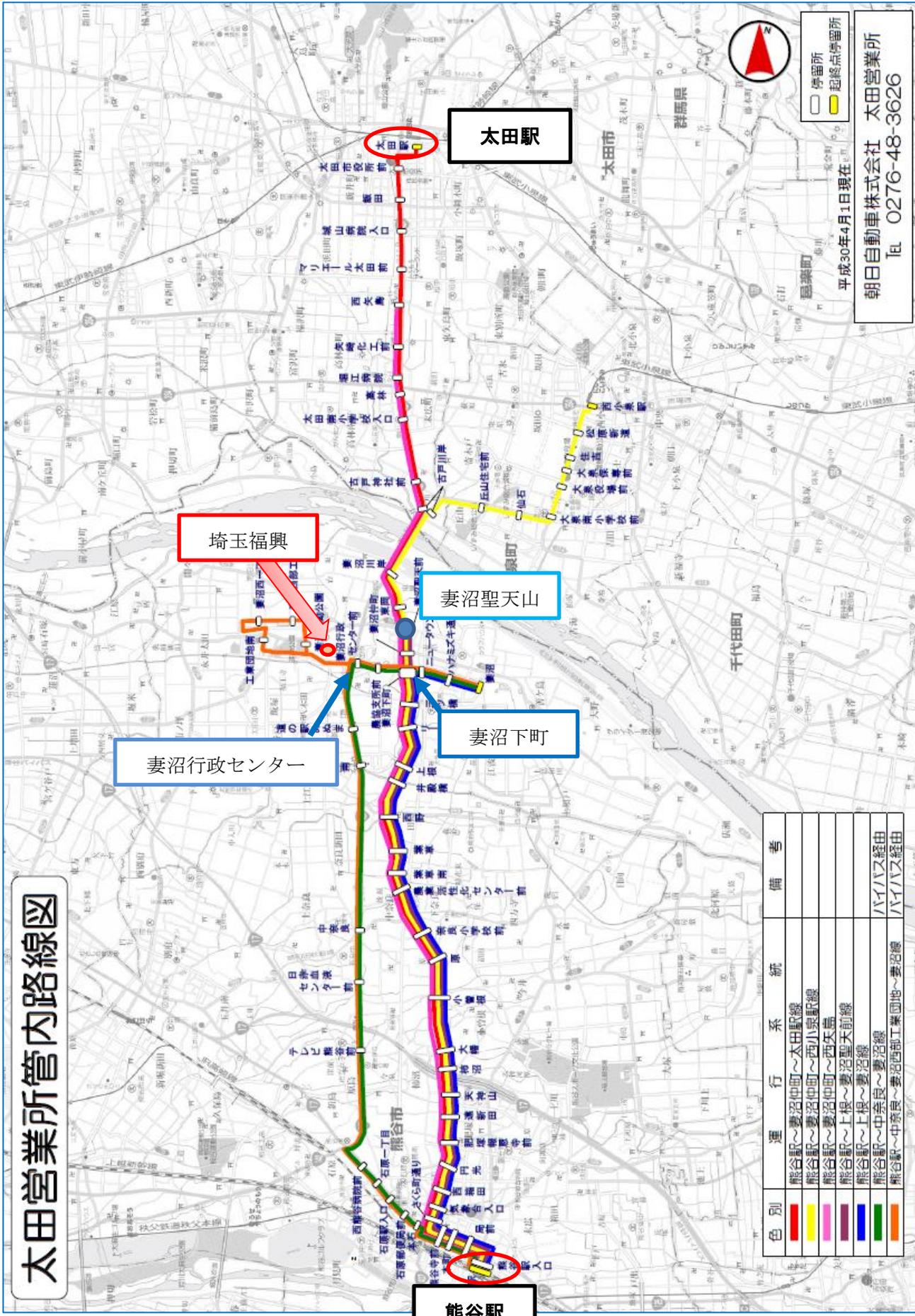
バス停「妻沼行政センター」から「埼玉福興(株)」までのルート



早めに行って周辺観光をしたい、あるいは直接「埼玉福興」に行きたい方は、以下を参考にしてください。なお、この場合はあらかじめ事務局まで電話あるいはメールをお願いします。また、当日、急に集合時間に間に合わなくなりそうな場合は、携帯等で事務局に直接ご連絡ください。

- ◆バスは熊谷駅からが便利ですが、路線がバイパス経由と旧道経由があり注意してください。妻沼行政センターはバイパス経由です。「旭自動車・熊谷駅-妻沼(バイパス経由)・妻沼行」にお乗りください。
- ◆旧道経由の方が本数も多く(概ね10分おき)、バス停から歩くのが苦にならなければ、妻沼下町で降りる手もあります。現地まで約20分程度(約1.4km)です。妻沼下町～妻沼行政センター間のバスもありますが、乗り換えの待ち時間が結構あるので、歩いた方が早いかもしれません。
- ◆太田駅からは(熊谷駅行)、旧道経由なので妻沼下町下車です。本数はおおむね40分おきです。
- ◆妻沼聖天山を訪ねたい方は、熊谷駅から朝日自動車・熊谷駅-西小泉駅・西小泉駅行のバスが便利です。バス停は妻沼聖天山です。バスは10分おきに出てかなり便利ですが、ここから埼玉福興までは徒歩30分程度(約1.9km)かかります。興味のある方は早めに出かけられてはいかがでしょうか。

太田営業所管内路線図



- 停留所
- 起終点停留所

平成30年4月1日現在
 朝日自動車株式会社 太田営業所
 TEL 0276-48-3626

色別	運行系統	備考
赤	熊谷駅～妻沼中町～太田駅線	
黄	熊谷駅～妻沼中町～西小泉駅線	
青	熊谷駅～妻沼中町～西矢島	
紫	熊谷駅～上根～妻沼聖天山	
緑	熊谷駅～上根～妻沼線	
橙	熊谷駅～中奈良～妻沼線	ハイバス経由
黄緑	熊谷駅～中奈良～妻沼西部工業団地～妻沼線	ハイバス経由

太田駅

埼玉福興

妻沼聖天山

妻沼行政センター

妻沼下町

熊谷駅